

## 研修事業報告

### 「郡上踊」「寒水の懸踊」 ユネスコ無形遺産登録記念事業への見学研修

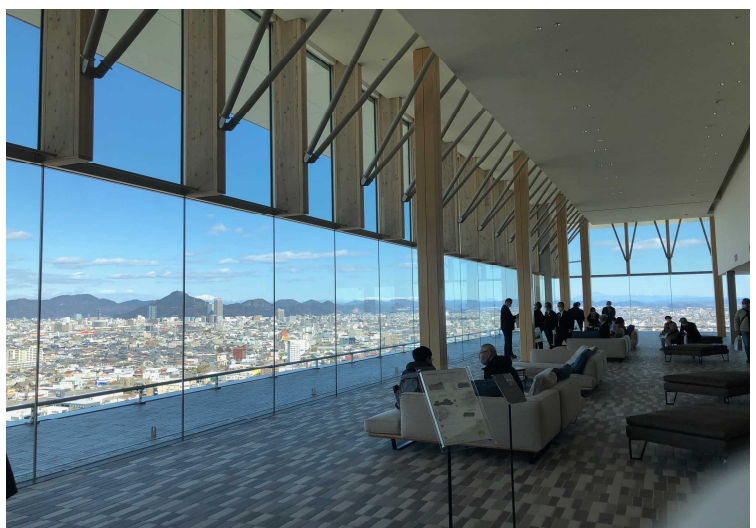
高鷲文化財保存協会では、高鷲振興事務所の協力でマイクロバスをお借りし、振興事務所職員も同乗してこの研修会を実施。

バスは、令和5年2月26日(日)11時に高鷲振興事務所を8名の会員を乗せ出発しました。12時に岐阜のレストランで昼食後、新県庁に向かいました。今年の1月に完工した新しい県庁は駐車場も広く沢山あり、スムーズに駐車でき、すぐに県庁へ入ることができました。そして20階にあります展望室へ向い、そこからの御嶽山、恵那山・能郷白山などが目の前にあり眺望も素晴らしく、是非皆さんも岐阜へ行かれた時には県庁をご見学ください。

その後、記念事業に参加して、文化財保存の難しさを学習し、18時には高鷲に着き、解散しました。皆さんお疲れ様でした。



展望室で記念撮影



展望室から見た岐阜市内

「郡上踊」「寒水の懸踊」ユネスコ無形遺産登録記念事業は新しい県庁1階の「ミナモホール」で行われました。

記念事業の内容は、副知事と日置市長の挨拶の後、郡上踊りと寒水の懸踊りの実演が地元の人達によって演技が行われ、続いてユネスコ事務局長が基調講演「ユネスコ無形遺産の次世代への継承」と題して行われた。次に事例発表として郡上踊り・寒水の懸踊り・高山祭・大垣祭・古川祭・本美濃紙の各保存会長がそれぞれの活動内容と問題点・悩みについて発表された。

各保存会とも問題点は、少子高齢化に伴う人材不足、地域の絆の希薄化であり、これを解決するために色々な活動をしている。例えば、祭を日曜日など休日に開催する、小学生が少ないため出演者の性別を関係なしに、他地域の子どもや出身者の子どもを出演依頼するとか、学校で出前事業を行い世代間の伝統の継承を図っているなどが紹介された。一方ロビーでは、パネル展示が為されたり、各地域の特産物の実演販売が行われていた。



寒水の懸踊り



郡上踊りお囃子（高鷲の笹島由美氏も居る）



シンポジウム